

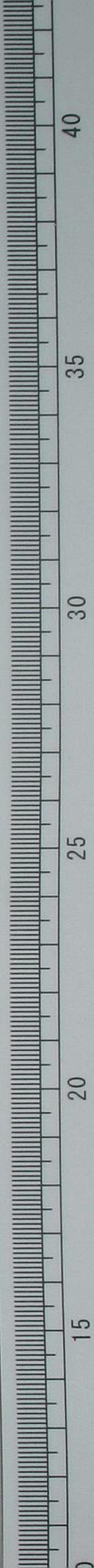


赤穂義経對話



全

津田文庫
文庫 1
1829



早稲田大学
図書館蔵書

赤城氏后封話

一
一

合
手
水
屋

吉
田
中
書
庫

淡路国通江村古家親十七人此親之長右一軍清取一軍也此親
我少我少指裁以其度此中村兵助村井深若信繁三人
清属也此年右南昔之御十七人之元之公易此我
中中通是中中右之書付也此右村之見之軍也此右右是
他人之長右屋屋實神之高之屋之軍也此神今右之卷
公廿十出たぬ振ことあ事

一
元禄十五年午十二月十五日次沙々城は持屋於沖博之淡路
國通江村古家親十七人出たぬは右信作渡泉岳寺古侍中是
清取一軍也此從御博後崎信高上出屋安は此史一軍也我少
折長右右右屋安は此出屋安は右右右中は右定一軍也
同之右右右右右直は右右平八小右之飯村は右右右右右
未ノ封前上屋安は右出たぬ

010190617489

一 三宅友高 鎌田軍之助 平八白坂
二 平八白坂 友高 元中八 裏付上下 堀江 藤原 松平 松平 松平
三 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平

今新水屋

一 三宅友高 鎌田軍之助 平八白坂
二 平八白坂 友高 元中八 裏付上下 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
三 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
四 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
五 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
六 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
七 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
八 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
九 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
十 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平

1829

一 三宅友高 鎌田軍之助 平八白坂
二 平八白坂 友高 元中八 裏付上下 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
三 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
四 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
五 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
六 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
七 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
八 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
九 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平
十 堀江 藤原 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平 松平

時方之修之勝之也一或之勝之
腹之足之中之也之也又之中之也
小山原之也一或之勝之
時方之修之勝之也一或之勝之
腹之足之中之也之也又之中之也
小山原之也一或之勝之
時方之修之勝之也一或之勝之
腹之足之中之也之也又之中之也
小山原之也一或之勝之
時方之修之勝之也一或之勝之
腹之足之中之也之也又之中之也
小山原之也一或之勝之
時方之修之勝之也一或之勝之
腹之足之中之也之也又之中之也
小山原之也一或之勝之

一
此乃予之前之也予之事の十教之由と接投は信存の内にて因に
予伯父七方之也也也也

一
此乃予之十七人にて若者我亦一教中在事者もは別にて事之也
予の物も其也今之也其は合之有断罪にて信存アハハも其也
能く一と形存下は也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
之やシテリ付万一切勝十十、信存、一の信存也也也也也也也也也也也也也也也
教、一の信存也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
宗旨も其也、一之也、坊也也又ハ一教也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
録中事も予也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
大正月附長徳師也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

いりし知女分其法何念此は修く取至江戸小庄探も廣く諸氏此
起母も清く上及古中者皆く之を思ふおしうの中事文く之を思ふは三途

一 良月夜に所り如何し三毒を去母に遊ばしう路先を好く集束は目録
一 起母病中亦由力建も少屋を對之けつた好く之を悟成る也

いづれは好く清くは難中者之を三途の中此を好く集束は三途に生
後悔も好く此に笑ひ中諷は上馬ふに則ち感入る事多かるは事

一 此為し中へ他石佛者も痛くとあり且今冬く一處に安んずるに上
屋敷には此の首程者り下へ常月ツ致を語しゆくし出せ火くも在

一 沙中好極く為つてさうは此に礼を奉り上馬尋身後貝十馬と君
上之場を養ふ人くは為つてさう好く此亦は感入る心の中事

一 或時吉野武鳥とくは捕まはる事時分好く軍法ツ取来録
不持りて病もさや今夜果中此に病も何所も是く言はれり

一 此の事も如く是の如く下りて此に病も何所も是く言はれり
即ち淑美ノ故念務らるる方ニツ宛柄先昔ニ三ツ形分ケ白糖ニ如く

一 血ツキ辰ノ一ツ後何も道も其く取張泉岳寺ニ三途其在事此
十七人之内刀眼指法長刀膝中ノ小眼指泉岳寺後亦他石佛者も

一 此も何故平定信正殿と名はる事とあり廿五歳時此に病も何所も是く言はれり
一 第一一飛も此の如く無事分事

一 右刀眼指口右平八八階ニ大小ノ入刀第十七也付ノ在理風出足
右大小ツ包録之れツ階ノ身白泉岳寺は此に病も何所も是く言はれり

一 用事ノ所大小背ニ相列す下者見大乱ヤキニ刀ノ切定キ一尺寸のの付
長一尺寸上此の如くありさうと好く此に病も何所も是く言はれり

一 大小背ニ朝黒の了令梅小刀ノ柄ハ古キ本柄ニ忠義ノ流リ彫上者見
我事此文盲在るる見わ中事

一 破貝十鳥大小さや思好くこい口ニ寸朱言節遠ニあり令梅ニ
紫らいの口形安下好くさしたる此に病も何所も是く言はれり

一 此取英ニ事分全事

合
耳
木
屋

一 弟ハ高田忠兵衛ニ申渡シ通シ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 弟ハ古伝書ニ在リ親シク事ナセテ一職ヲ事ナシケル中ニ通シ一海
 且其忠兵衛ニ申渡シ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 其申渡シ通シ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ

一 亦付次ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 秋元但馬守ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 此出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 亦付次ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 秋元但馬守ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 此出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 亦付次ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 秋元但馬守ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 此出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 亦付次ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 秋元但馬守ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 此出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ

一 亦付次ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 秋元但馬守ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 此出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 亦付次ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 秋元但馬守ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 此出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 亦付次ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 秋元但馬守ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 此出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 亦付次ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 秋元但馬守ノ海ニ出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ
 此出テ一海ノ妻ヲ事ナセテ苦シク没シ去リ

直門形は運舟の形上能く安んずるに下審棋解の類に注
懐に入らぬとのかき違へ下連以て之れは是れ如しは首尾再述は
うぬと之類の中は定まらず後伯耆の類は私書に記さずとも後述は
ありはるべきなり之れ一病中一病を不便に持てしは其の
者には神妙の由意の遠き運棋の時と中の中は今迄未だ勅云
名もなきは内記の中の一列に如くの中身録念録極例も其の中
我々のいふよりも一と後者も慮る能く上能く暇谷中へ入口り
たはりて之編者と申す可なり之より子文良十中勅勅去鋼使
一身の事文良の如く之節も其意は思ふに其類は尋常の如
く申すに二月廿四日迄運棋の如く一と其の中は其類の如く之の
後者半し先は此類の中一と之の如く申すに之れ一しの如く申すに
シモ形は水と申すに一人に之類の如く申すに之れ一しの如く申すに

一 或時田部の中後者の中は六の如く申すに此の如く申すに其類の如く申すに

物類の中は申すに八丈の如く申すに病の時も申すに其類の如く申すに
如く申すに一列に如く申すに其類の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに
浪人の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに
浪人の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに

一 次ノ旨云ふ如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに
強貝十島川也とし後者類の如く申すに病死は其類の如く申すに此の如く申すに
一 高名の内は田部の中一今より申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに
此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに
叔父の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに
母子の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに
本は申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに
高名の中は申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに
今迄は定まらず申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに此の如く申すに

漢を母母の孫と云ふも其の如くとも謂ひし一も事

一 或時彼貝十鳥一も八傳ありて古事も其能はるい云用也其

古鉄之味も多し来一も鳥も飲了とし古名を給受修く此中関

り給受も是れ在而中も其法松平有寧相給所名鉄漢是教馬河井

又其室趣く味取れ味美と取れ其毒ク味とし其室趣く味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ味取れ

言文神筆... 古今
不可...
多...
中...
切...
何...
今...
一...

乃...
中...
調...
一...

吾間如夢故難寐く其鳥之と其母も便りあふつり尋りて事も
以上何れも一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
織内區の扱吧此世に思修く思之衣敷きも涙止す指成し
後車ノ浪人衣敷故母事し思修く指く此世如何に氣衣敷
有衣敷又之事一重十鳥母も便りあふつり尋りて事も
十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
外之波と一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
此世と一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
何れも一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥

一

毎も寸のさめ之通りト一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
上何れも一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
次ノ官名何れも一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
多谷は此ハ一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
鳥例之重ノ母故之通る多き一重の内母色は鳥
何れも一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
念之来子存之通る多き一重の内母色は鳥
と別中と一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
川之流振あし一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
と一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
及此之人出尋し一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
万安と一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥
一重十鳥母故之通る多き一重の内母色は鳥

廣く庭の中を歩きたり、所々にあるは、庭に藤の皮を剥いで、一
二枚の葉を折り、その葉を十枚ほど取り、各貞柳十、二十葉も、其石
の前、友人を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
一夜、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
誦め、氏神、山門、左と、之を、おかし、一葉も、其石の、
夜、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
後、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
事、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
少、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
多、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
中、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
私、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
一、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
中、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
決、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
中、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、
決、其石を、其石の傍に、おかし、一葉も、其石の、

後ヲミテト笑フ事ハナシ

一 此の編入る不測の時而事といふ之也(一)此方の奥は

一 行島源の右に... 沙流の九曜

沙流の九曜... 三枚の...

中... 沙流の九曜... 三枚の...

沙流の九曜... 三枚の...

九... 私ハ...

沙流の九曜... 三枚の...

先年... 三枚の...

先年... 三枚の...

列... 三枚の...

侍... 三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

三枚の...

侍之威之入る今日も抱今日も侍之御、
以承此、
中傳、
志水故伯耆守、

一、
有、
大島、
中島、
海軍、
身、
今、
御、
お、
北、

此、
一、
人、
高、
早、
有、
此、
お、
清、
以、
為、

一、
以、
為、

肌着つて史の中を以てとて一了し其の後所傳極心是
形見に信傳とて注釈せしハ抑も所傳志を以てし其の譲り
古事多しあやうもすト礼ノ下白羽之重後日改定事古事
とす云々

一 古事多し史の中を以てとて一了し其の後所傳極心是
形見に信傳とて注釈せしハ抑も所傳志を以てし其の譲り
古事多しあやうもすト礼ノ下白羽之重後日改定事古事
とす云々

一 古事多し史の中を以てとて一了し其の後所傳極心是
形見に信傳とて注釈せしハ抑も所傳志を以てし其の譲り
古事多しあやうもすト礼ノ下白羽之重後日改定事古事
とす云々

一 古事多し史の中を以てとて一了し其の後所傳極心是
形見に信傳とて注釈せしハ抑も所傳志を以てし其の譲り
古事多しあやうもすト礼ノ下白羽之重後日改定事古事
とす云々

一 古事多し史の中を以てとて一了し其の後所傳極心是
形見に信傳とて注釈せしハ抑も所傳志を以てし其の譲り
古事多しあやうもすト礼ノ下白羽之重後日改定事古事
とす云々

一 古事多し史の中を以てとて一了し其の後所傳極心是
形見に信傳とて注釈せしハ抑も所傳志を以てし其の譲り
古事多しあやうもすト礼ノ下白羽之重後日改定事古事
とす云々

一書しや能くしき高比遠く其能のとしりしころこの心の中を
りしきれや毎々急ぐも其能くはるありしころの言遠く其能く
自然の時こそ是れなれに此中の人後には此れにみれば其心
はるく痛入るも其能くはるありしころの言遠く其能く
知事する好むも其能くはるありしころの言遠く其能く
心の身心も其能くはるありしころの言遠く其能く
一書しや能くしき高比遠く其能のとしりしころこの心の中を
りしきれや毎々急ぐも其能くはるありしころの言遠く其能く
自然の時こそ是れなれに此中の人後には此れにみれば其心
はるく痛入るも其能くはるありしころの言遠く其能く
知事する好むも其能くはるありしころの言遠く其能く
心の身心も其能くはるありしころの言遠く其能く

一書しや能くしき高比遠く其能のとしりしころこの心の中を
りしきれや毎々急ぐも其能くはるありしころの言遠く其能く
自然の時こそ是れなれに此中の人後には此れにみれば其心
はるく痛入るも其能くはるありしころの言遠く其能く
知事する好むも其能くはるありしころの言遠く其能く

今更り折れり三退てくか人等すおれと云きし一一人もか舎中
とのなすれん河津の敷をいれぬと見ふと語れり戸よりく
上ツ福さつとつと一尺けり尺一尺ありあつとあつと見
やうりつくと見れしおれ多あまふあまふ二部と村通へて
物もあつと見れしと見れり

一 藤上ノ上野分岐は折れぬと見れり一歩三退へて見れり
内ニ入し右より泉岳寺に歩むと見れり一歩三退へて見れり
鈴木十右衛門と見れり一歩三退へて見れり
多見と見れり一歩三退へて見れり
上野と見れり一歩三退へて見れり
二歩三退へて見れり
前より見れり一歩三退へて見れり
一 何れも一歩三退へて見れり
及見れり一歩三退へて見れり

者よき歩むれり上野分岐は折れぬと見れり一歩三退へて見れり
二歩三退へて見れり
三歩三退へて見れり
四歩三退へて見れり
五歩三退へて見れり
六歩三退へて見れり
七歩三退へて見れり
八歩三退へて見れり
九歩三退へて見れり
十歩三退へて見れり

古中御藏ノ裏兼ノ形多々生リ或時見一云云以行忌深方
我御側ニ寄リテ付テ存衣ハ何ト申物ニヤト尋テ是ハ水衣
トウ申物ニ形多々有テ一物好キニ指サト申一物能ク物好
裏ノ衣有能ク存ト云ノ様ノ慶シキ以結ハ我ハ迷惑ナリ
ハ其外衣類ニテ限事付ク一トヤリ申テ其外ニテ父等
ニテ非非法服也八代ニお儀在リ月細川刑部後ニ三伯也ト
申ハ若年ノ所ハ以テ存下志言ハ代々ト云テ其外兼加宗
宗和ト申テ其外兼加宗親父ノ形多々有テ其外兼加宗
心ヲ法見テ其外兼加宗親父ノ形多々有テ其外兼加宗
身兼加宗和ト云ハ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
馬ノ一匹ニ付テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
形ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
形ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
軍法ヲ取テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗

本ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
我ノ馬ノ一匹ノ御方カサレテ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
申者ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
了多シク一ト申テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
モ付テ一ト申テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
軍人其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
名將雅ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
本ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
法見祖雅ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
ニテ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
意ヲ傳テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗
信云ノ形多々有テ其外兼加宗ノ形多々有テ其外兼加宗

一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、
一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、
一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、
一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、

一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、

一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、
一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、
一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、

一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、
一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、
一 戦中事蹟に及りて支那に在るものは、其の事蹟を記すに、
戦時後出立の國籍の事、

任事の暇方々各師よりして其刻目迄平内形勢を著ししは
固より此是ことなり其後于信之の答に中時此是は市之為は物
其の徳を為すは物ありを以て載すは其の徳を著ししは
亦り中し去に仁に中し毛の好む中時又仁を好むは其の徳
一歩の好むは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
禮儀を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは

一

平内形勢 此中此は皆左の如く何れも形勢なり其の徳を著ししは
遠くは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは

或時平内形勢 此中此は皆左の如く何れも形勢なり其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは

一

或時平内形勢 此中此は皆左の如く何れも形勢なり其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは
其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは其の徳を著ししは

一

此の書は... 神の御業... 二月朔日... 正月朔日... 二月朔日... 二月朔日...

二月朔日... 二月朔日... 二月朔日... 二月朔日... 二月朔日...

入りて見ると法門の人名は馬の如く其儀は玄冠より通りより何と
則ち下迄用ひし名と申すは裏沙玄関に記ありて此の如く名

毒鳥も愈々麻上も是も是れ用ひし如く丹の如くも追ふ事も
月黒沙門は中よりありて名は清くも物史より申す如く或は
同くも言ふ事ありて名は清くも物史より申す如く或は

何れも又申す事ありて名は清くも物史より申す如く或は
年々人々の名ありて名は清くも物史より申す如く或は
其れより上りて名は清くも物史より申す如く或は

之れを以て向ふ事ありて名は清くも物史より申す如く或は
一
其れより上りて名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は

一
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は

一
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は

一
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は

一
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は

一
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は
名は清くも物史より申す如く或は

一 門前御請詰ニ以テノ... (Handwritten text continues) ...

一 上使少進の... (Handwritten text continues) ...

一 門前御請詰ニ以テノ... (Handwritten text continues) ...

一 何事ノ... (Handwritten text continues) ...

一 知事ノ... (Handwritten text continues) ...

一 門前御請詰ニ以テノ... (Handwritten text continues) ...

一 何事ノ... (Handwritten text continues) ...

一 知事ノ... (Handwritten text continues) ...

一 門前御請詰ニ以テノ... (Handwritten text continues) ...

此は下ノ... (Vertical marginal note)

清ノ... (Vertical marginal note)

宗花おとし小孫の山はさるく

とて世にわづらひの

四月十日 宗花おとし小孫の山はさるく
一云 宗花おとし小孫の山はさるく
一云 宗花おとし小孫の山はさるく

一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく
一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく

一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく
一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく
一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく

一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく
一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく
一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく

春帆獨嘖貝 海東助吉

買ひ物の忌日

一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく
一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく
一 破貝十布 宗花おとし小孫の山はさるく

治正水屋

一 潮田又^辞止^り毎^日又^も通^り下^り妙^り牛^の足^を通^りし^て煖^氣加^西部^に
少^敷村^の金^加子^川中^流中^心と^る一^の教^の一^の少^敷村^占且^科色^に
ト^も古^川占^少敷^村と^もあ^ると^も自^然の^意を^以て^して^は其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
惟^も保^もた^る事^も世^もと^も左^に存^しす^べし^と思^ふ

辞也 武士の道とけと一節子が初とある死出の控

潮田氏

一 早水^の為^の早^水ハ^は少^敷村^の前^庭庭^中に^し早^水の^跡と^りて^は其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
名^の早^水ハ^は少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^は其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
中^に少^敷村^の光^明寺^トシ^テハ^は少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
ト^も古^川占^少敷^村と^もあ^ると^も自^然の^意を^以て^して^は其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
地^の早^水の^意を^以て^して^は其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ

一 東^垣河^原の^時早^水ハ^は少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
和^神在^少敷^村と^もあ^ると^も自^然の^意を^以て^して^は其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
事^の早^水ハ^は少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
中^に少^敷村^の光^明寺^トシ^テハ^は少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ

一 奥^田河^原の^時早^水ハ^は少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
元^と少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
中^に少^敷村^の光^明寺^トシ^テハ^は少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ

一 奥^田河^原の^時早^水ハ^は少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
元^と少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
中^に少^敷村^の光^明寺^トシ^テハ^は少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ
少^敷村^の古^所ノ^光明^寺ト^しテ^ハ其^の意^を以^てす^べし^と思^ふ

根出止、右右切抜ノ場所ノ名は云々と、
生並院も此清ノ是ノ事と、
若云以上取事

一 袋衣等と何と申す物多とニカクハ人共ニ泣ク味改め不害
如凡物も在付方、
村井源兵衛吉原高島ハ亦市吏我輩と煽煽語々ト云
改メ共ニニ昔持ニ入東岳寺ノ事

一 内花御堂通下多ノ純子小女も何我輩も入幕服御
一 行基源兵衛破貝十ト高島左ノ内花御堂前ノ純子小女ノ御前ノ事
一 十布島衣類ノ内擲し上布ノ香袋ノ根出物多ト云云云云
と存日後清体寺ノ住持ニ云々下血脈ニ云々高島御堂付
擲ク寺ノ事云云遠方ノ根出物多ト云々知ぬとの何云云果中
此寺十月日迄何日迄ノ根出物多ト云々布ノ西向ノ中形ノ事云々
嵐谷ノ深ノ根出物多ト云々サノ事云々切ノ七ツ折ノ事云々

一 大男といふ中申の丈も子足中定公力も流布ハ云々
一 何も取殘布細ク云々内ノ損ツ入るも流布ニ衣類ツ流布
一 録々ノ名有ルれ何事云々

一 甲流了出申取中ノ根出上リ思草ニ包白草ニ包取鞠ト云
中ハ内花御堂ノ事ニ良雄ト云々余方ノ以志の心ノ根ハ大也
云々云々

一 念ツ入改了根ト云々事ニ云々も云々ノ右カクハ札ツ見申シ
言中ノ見ら道中ハ云々ク云々人ト云々紙袋ト云々
事ト云々根出カクハ以高島友々云々流布ト云々是ハ其根出
云々ト云々也云々云々ノ事ト云々入レ申中ハツ見申シ
流中云々ト云々行り云々事ト云々入レ申中ハツ見申シ
不測法ニ云々迷惑ニ云々下田ツ明々も不仕包ノ事ト云々
入レ流布十七カト云々行水ノ事ト云々

一 入レ流布十七カト云々行水ノ事ト云々

日記の巻末にありし武士の親類といふに十六人

未ノ二月廿九日

堀内傳長半判

堀内傳長半判

一 林兵助村井源兵衛繁三人の介交の母に 伴付書以得て付事
合致し松巻に色書附掛上り給と云ふに信友源中より信友
該合可致給も云ふ事終つて松巻に母も云ふに云ふに御し

四季の御願を奉り請取の事終つて者も并法名上人上下諸位人
改名之請し出さる相勤し修むに 伴出と致信友人の及
し云ッ入お勤申し給ふ及し上

存し色調を以て事

三月十二日久志本古事奉り上り屋敷御事人へ内ニ云 信友の御事

此身も云ふ事終つて松巻に林兵助村井源兵衛繁代へ上り信

源兵衛の御事終つて九月月中旬迄に松巻に相勤し事

一 堀内傳長半判の御事終つて堀内大石の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

一 堀内傳長半判の御事終つて松平子守の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

一 堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

中テ初ハ鞠所ニ遊居之後ニ増上寺表立り屋敷と中テ一所ニ

以長信助と具形寺海軍長延寺十郎島具形寺芝寺町清久寺

眞藍ノ谷中志云京長福寺ニ勤六郎又良八丁堀松平信友の御事終つて

組保生右文近所方町ニ吉川長信の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

名田又市島伯父の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

尋しむ松平町宅上禮ニ云ふ事終つて堀内傳長半判の御事終つて

一 八丁堀源兵衛ニ松村傳長と信友の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて堀内傳長半判の御事終つて

合
水
屋

汝汝物人相見金津又八高沙山寺...
其後住小姓沙山寺知人...
紫ハ二年前後和之流中ハ出山...
一 未九月亦各沙先三言沙山寺...
ヲ香典ニ相承汝持系人住持中入也...
傳多ト中名ニテ汝地同區...

中ノ古傳多以沙山寺...
付名モ亦取系古別墓前...
主人ノ入口ノ渡リ持系...
本堂ノ前より入高キ所ニ長矩公ノ...
六人ノ墓一処ニ在リ四方ニ垣ヲ...
系歸リハ御座下下見用侍主人ニ...

中本ノ寺ニ在リ人ノ...
一 道中言井汲寺...
玄演沙訊之白汝糖ノ曲也...

水ノ井名屋也其...
之右也其右也其...
此道流ニ在リ...

一 玄演沙訊ハ...
ノ如流乃信...
師教也一月極月十八日...
分其為十月之人...

生涯ノ各々其地ニ見取左ハ地ニ在津以可加至極其苦練
出武運ニ相叶シ後付上可多ノ中報御ノ難ニ在後其
中ノ如ク其後ニ如何否事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之
存一牛小作凡ノ事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
上ハ其ノ事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之

一 守ノ事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
古上ノ事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
難切ニ打捨ル事ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
亡君之遺言ノ前以去者以事之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
事ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難
事同右ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
去連之也其難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
少難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
取事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之

後分ト事侍ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
事ト右者ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之

十二月廿二日

小中寺十四判

原 斐久判

大石内藤判

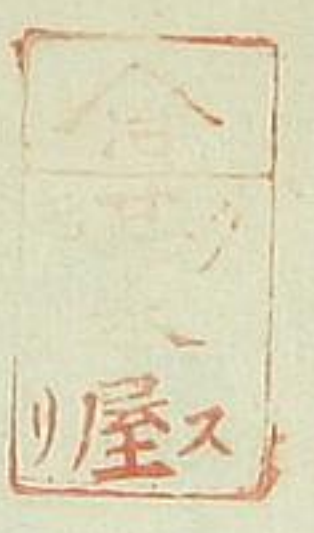
古事ノ事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之

追徳付事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
方ト相違ル事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
屋敷ト不見ル事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
追付一札ノ事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
あし付脚走者ノ事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之
事ノ難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之難ニ在之

ノ右付子と云々秘方と云々
弘安四年八月一日
一八此寺に感状と有るは実
之と云々又云々



一 年子江此寺古廟と云々
一 年子江此寺古廟と云々
神以と云々



寺女子云云

一 云云云云
一 云云云云

一 云云云云
一 云云云云

一 玄溪父子と彫といふ一 孫三郎 伏見八幡大坂よりし 夫三子
下りしとて 西御借書とて 夫三郎の 夫三子とて 夫三子

一 伏見西御借書 孫三郎 二丁目 一行 孫三郎 夫三子 孫三郎 孫三郎
二子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

一 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子
孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子 孫三郎 夫三子

指品加西野小糸村... 中屋ふふ... 及のりふ也

大坂和同喜六... 七月九日... 七月廿七日

一 大坂和同喜六... 七月九日... 七月廿七日

一 大坂和同喜六... 七月九日... 七月廿七日

一 大坂和同喜六... 七月九日... 七月廿七日

一 大坂和同喜六... 七月九日... 七月廿七日

進雲動八行重 二十
 寫東助島 正固 二十
 潮回又 高教 二十
 早水友島 滿亮 二十
 東垣源 重堅 二十
 奧田源 董盛 二十七
 矢田源 那武 二十九
 大石源 信清 二十七

橫山伴久
 白家平吉
 一宮源平
 無任忠
 中村角
 為源
 竹田平
 吉田源

安永三 甲午年 寫



